

経済産業省・独立行政法人情報処理推進機構
第4回 デジタルリテラシーの育成に関するタスクフォース
議事要旨

- 日 時 令和7年6月23日（月）13:00～15:00
■場 所 経済産業省 未来対話ルーム
■事務局 経済産業省、独立行政法人情報処理推進機構

1) IT パスポート試験の見直しの方向性について

事務局より、「IT パスポート試験の見直しの方向性」について説明が行われた。その後、以下のような討議が行われた。

【全体討議】

（対象者像、期待する技術水準）

- 対象者像が大きく見直された場合、現行の IT パスポート試験との継続性を考慮する必要がある。試験名称に関する議論があるとよい。
- 共通的な基礎知識と併せて、基本的なマインド・スタンスを備えていることを前面に出してもよいのでは。
- 全てのビジネスパーソンを対象にしながら、担当業務に即した内容に限定されていることに違和感がある。ビジネスパーソンという表現が、ホワイトカラーに限定されるようなイメージがあるので、表現は検討したほうがよい。
- 新しい価値創造をする人材なのか、デジタル技術を活用する人材なのか、IT パスポート試験がどこを目指すためのものなのか、解像度を高めた方がよい。
- 「デジタル」の定義が曖昧ではないか。
- DX リテラシー標準（DSS-L）の「Why」「What」「How」の順番に対応するように、期待する技術水準も構成されているとよい。
- 期待する技術水準に含まれる「セキュリティ・モラル・コンプライアンス」観点が、対象者像に含まれているとよい。
- IT パスポート試験を、広くあまねくすべての人に受けてもらうようなエントリーレベルの試験にするのか。それとも、DX 推進を見据えて、ある程度のデジタルスキルを身につけているレベルの試験にするのか決めなければならない。

（出題範囲、レベル感）

- 2進数などの数理問題は不要ではないかという意見もあるが、問題の内容を日常のシ

チュエーションに置き換えて受験者がイメージしやすくするなど、問い方の検討が必要。

- 経営戦略や会計・財務など、別の試験が存在する知識については、IT パスポート試験に含まなくてもよいのではないか。
- ストラテジ分野があることで、全ての従業員に受験させる動機づけがしやすくなる。単に受験者を増やしたいならば、テクノロジー分野の出題は減らすとよい。しかし、それでは「IT」ではない。
- 試験に合格していると、「IT に苦手意識がない」「セキュリティやコンプライアンスの違反事項を理解している」「デジタルに興味があり DX/IT 人材として自部署で活躍してもらえると評価できると考える。そのためにはあまり敷居を高くしない方がよい。
- ストラテジ分野に論理的思考力を問う問題を入れた方がよい。
- 生成 AI の登場によって環境が大きく変わっていく中で、新たな試験として全ての社会人をターゲットにするのであれば、プログラミング・アルゴリズムの出題は不要になるのでは。
- AI を利活用していくうえで、AI 技術について知っている必要はないという意見がある一方で、ベンダーと会話ができるような最低限の知識は必要かと思う。
- プロジェクトマネジメントの基本的な知識や、クリティカルパスのような考え方があことは知っておく必要がある。一方で、問い方についての検討が必要。どこをターゲットにするかによるが、ビジネスパーソンであれば、「システム開発プロセス」を例示している箇所を「業務プロセス」に置き換えるなどすると、イメージしやすくなると思う。

以上

<お問い合わせ先>

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課

電話：03-3501-1511（内線：3971～3975）

独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) デジタル人材センター 人材スキルアセスメント部

お問い合わせフォーム：info.ipa.go.jp/form/pub/inquire/itec